

∞メール No. 46

会員の皆様

ご無沙汰しておりました。皆様、お元気でしょうか。

前回の∞メールを今年3月23日に発信し、その後、時間がなかなかとれずに行きました。

さて、条件反射制御法学会第12回学術集会の日が近づいて参りました。開催は9月9日で、今年は4年ぶりに現地会場とオンラインLIVE配信のハイブリッド形式で開催します。

テーマは、「性的他害等を防ぐ試みと展望」です。

性的他害行為は違法行為でもあり、刑事司法体系がかかわる問題でもありますので、西南学院大学法学部教授の平井佐和子先生から、「性的他害行為に対する刑事規制の変遷」という題でご講演をいただきます。

また、治療技法に関しては、早稲田大学人間科学学術院教授の嶋田洋徳先生から「認知行動療法に基づく性的他害等に対する治療的支援」という題でご講演をいただきます。

新たな会員の方は、条件反射制御法は覚醒剤乱用やアルコール症に対するものである、なぜ、性的他害行為等を条件反射制御法学会が扱うのかと思われるかも知れません。

この技法は確かに当初は覚醒剤乱用に対して開発したものです。臨床で用いて、数日単位で覚醒剤に対する欲求がどんどん低くなっていく変化を目の当たりにして、まずは目の前の光景が信じられず、あまりにこの疾病ばかりに対応してきた自分はとうとう変になったのではないかとさえ思いました。しかし、なぜ効果が生じるのかを毎日考えているとだんだん分かってきたのです。

生きることは防御、摂食、生殖にときに失敗しても、成功を反復することです。単純ではありますが、生きることに成功した活動は生じ易くなり、生きることに失敗した活動はだんだん生じなくなるという性質が生命を支え、次世代につないできました。その性質は進化を支えてきたのです。その性質を構成する現象には、成功したときに、それまでの神経活動を再現しやすい形で強化するというものがあります。覚醒剤の薬理作用にもその強化効果があるので、覚醒剤を摂取すると動物の進化のシステムに作用して、覚醒剤を摂取するまでの行動、つまり、覚醒剤を探して、準備して、摂取する行動を再現しやすい形で強化して、後にその行動を反射の作動で再現するのです。

そのように整理して臨床で用いている内に、防御、摂食、生殖の行動が現代において過剰に生じる病的な状態にも効果を得られるだろうと考え、物質使用障害に対する技法にいろいろな工夫を加えて、性的他害行為にも条件反射制御法は効果を表すものに高まってきました。このような経過で把握したところを学術集会で私も「生殖本能の過剰な作動に対する条件反射制御法」という題で講演させていただきます。

他には、過去に性的他害行為をした本人からの報告があります。

また、5人の会員の方から報告があります。

しっかりと勉強して、本人の苦悩を改善し、また、被害者の方を生まないようにしたいと思います。

既に申込みの受け付けは始まっていますので、当会のホームページからお申し込みください。皆様と会場またはオンラインでお目にかかれることを楽しみにしております。

平井慎二

事務局からのお知らせなど

理事会の報告

2023年4月2日、5月7日、6月4日に理事会が開催されました。理事会での意見交換で検討された事項、決定した事項を報告します。

1. 第12回学術集会の実行委員会からの報告

実行委員会の委員長に理事の西村武彦氏が就任し、現地会場のAP東京丸の内会場視察の報告と、現時点での下記計画内容が伝えられました。

- ・新型コロナ感染症対策のために、3人掛けのテーブルを2人で利用する。
- ・申込時に、現地参加かオンライン参加かを選択してもらう。
- ・現地参加の定員は50名ほどにする。

2. 第13回学術集会（2024年開催）の焦点

摂食本能の過剰な作動への対応を焦点にすることを再確認しました。テーマとしてどのような言葉にするかは今後検討します。

治療技法に関する専門家および病的窃盗に罹患した者による窃盗の責任能力について研究している専門家に話を聞くことが検討されました。

3. 第14回学術集会（2025年開催）の焦点

ヒトの行動発現機序の把握と処遇への展開を焦点とすることが提案されました。

技法や司法が対象とするのはヒトであり、ヒトの行動が生じるメカニズムを把握することは、逸脱に対応する処遇の方法を検討するためにも必要と考えられるからです。

今後も検討を重ねます。

当会が開催する研修会・学術集会・研究会のご案内

下記は参加申込みを受け付け中です。

・第10回研究会

テーマ：ナルメフェンの飲酒量低減（減酒）効果のメカニズムを知ろう

日 程：2023年7月10日（月）19:00-21:00

場 所：オンラインLIVE配信（Zoom）

講 師：宮田久嗣先生

東京慈恵会医科大学 客員教授（精神医学）

医療法人社団光生会 平川病院 副院長

・第12回学術集会

テーマ：性的他害等を防ぐ試みと展望

日 程：2023年9月9日（土）

会 場：ハイブリッド開催 現地＋オンラインLIVE配信（Zoom）

現 地：A P 東京丸の内 東京駅より徒歩6分

後日、一部を除いて、オンデマンド配信の予定です。

他機関が開催する条件反射制御法に関する企画のご案内

・第119回日本精神神経学会学術総会

2023年6月22日～24日

シンポジウムのテーマ：ストーカー加害者への治療的介入

報告者：長谷川直実、小早川明子、平井慎二、太田尾麿（警察庁）

・ 8th International Conference on Behavioral Addictions

2023年8月23日～25日

シンポジウム：Conditioned Reflex Control Technique (CRCT)

for behavioral addiction

報告者：朴相運（韓国大同病院）、朴明炫（韓国大同病院）、
長谷川直実、工藤綾乃（大通公園メンタルクリニック）
平井慎二（下総精神医療センター）

他の機関が開催する企画で報告等をする機会がありましたら、お教えください。

∞メールで皆様にご案内させていただきます。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214